

(注) 本表は、平成 19 年及び平成 22 年の国民生活基礎調査の特別集計により作成された。

国民生活基礎調査：

保健、医療、福祉、年金、所得等国民生活の基礎的事項を調査し、厚生労働行政の企画及び運営に必要な基礎資料を得ることを目的とするものであり、昭和 61 年を初年として 3 年ごとに大規模な調査を実施し、中間の各年は小規模な調査を実施することとしている。

調査対象：

全国の世帯及び世帯員を対象とし、国勢調査区のうち後置番号 1 及び 8 から層化無作為抽出した 5,510 地区内のすべての世帯（約 29 万世帯）及び世帯員（約 75 万人）を調査客体とした。

推計方法：

各県（指定都市のある県については指定都市とそれ以外の地域を区別）の推計値は、集計値に各県ごとに定められた係数を乗して算出した。

K6：

K6 は米国の Kessler らによって、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、一般住民を対象とした調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として広く利用されている。

「神経過敏に感じましたか」「絶望的だと感じましたか」「そわそわ、落ち着かなく感じましたか」「気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じましたか」「何をするのも骨折りだと感じましたか」「自分は価値のない人間だと感じましたか」の 6 つの質問について 5 段階（「まったくない」（0 点）、「少しだけ」（1 点）、「ときどき」（2 点）、「たいてい」（3 点）、「いつも」（4 点））で点数化する。合計点数が高いほど、精神的な問題がより重い可能性があると考えられている。

出典：厚生労働省 HP (<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/20-21.html>)